

# 日 誌 (昭和44年8月)

## 【国 内】

- 30日 ○本行、公定歩合および準備預金制度の準備率引上げを決定(公定歩合は9月1日から、準備率は9月5日から実施)

なお、今回から本行の金利はすべて年利建に改めると発表(「要録」参照)

## 【海 外】

- 1日 ○オランダ、公定歩合を引上げ(5.5→6.0%、4日から実施)  
○豪州、市中預貸金金利を引上げ(当座貸越金利7.5→7.75%、定期預金金利4.75→5.0%)
- 2日 ○ニクソン米大統領、ルーマニア親善訪問(3日まで)
- 4日 ○米国、10%付加税6か月延長法案、議会通过
- 5日 ○イタリア、ルモール内閣成立
- 6日 ○第10回ルーマニア共産党大会開催(12日まで)、  
チャウシェスク書記長再選
- 7日 ○ベルギー、資本流出抑制措置を実施(7月31日決定)
- 8日 ○フランス、フラン平価の11.1%切下げを発表(11日から実施)  
○イラン、公定歩合を引上げ(7.0→8.0%)
- 9日 ○インド、銀行国有化を決定
- 10日 ○フランス、物価の暫定的凍結を発表(9月15日まで)
- 11日 ○フランス銀行、輸出関係手形再割引率を引上げ(短期5.0→7.0%など)  
○フランス、外貨建証券の取引を再開

- 12日 ○EEC、フラン切下げに伴う共通農産物価格問題についての合意成立  
○豪州、1970年度予算案発表
- 13日 ○米国連邦準備制度理事会、ユーロ・ダラー取入れに対する準備率適用を発表(10月16日から実施)
- 14日 ○ブンデスバンク、ロンバード貸付に高率金利適用を決定(9月1日から実施)  
○イタリア、公定歩合を引上げ(3.5%または5.0%→4.0%または5.5%)
- 17日 ○スハルト・インドネシア大統領、西イリアンのインドネシア編入を宣言
- 18日 ○カンボジア、為替レートを切り下げるとともに、従来の複数レートを1米ドル＝55.54リエルのレートに一本化  
○豪州、支払準備率を引上げ(9.0→9.5%)
- 26日 ○第3回日韓定期閣僚会議、東京で開催(29日まで)
- 28日 ○フランス、国家信用理事会、消費者信用規制の強化を決定(9月1日から1970年1月末まで実施)